

ニュースレター：No18

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。・・・ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を探しに行かないだろうか。」 マタイ 18：10～13

2021 年も残り 3 か月余りとなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

ルワンダでは、8 月より 18 歳以上の人の新型コロナワクチン接種が始まりました。イタベホの受益者やスタッフたちが 1 回目のワクチンを接種したのは、8 月の下旬でした。ファイザー社製で、アメリカやフランスなど幾つかの国々の支援のよるものようです。

私は、9 月上旬に 1 回目を接種しました。指定された接種会場へ行くと、広い会場には多数の人がいましたが、外国人の姿は見られません。そこでは、担当者の指示に従って必要事項をカードに記入し、それをコンピューターに入力し登録を済ませ、接種を終えると、2 回目の接種する日が告げられます。そして、2 回目を終えた後、接種した証明書が発行されるようです。

ワクチン接種の手続きから接種まで、総じてよく準備された印象を持ちましたが、広い会場であっても多数の人が集まっていること、着用しているマスクの材質や装着の仕様などから、接種会場でクラスターが発生するのではないかと危惧したことでした。

首都・キガリの人口は 400 万人強、ルワンダの全人口の三分の一が首都に居住しているため、キガリは人口密度が高く、新型コロナの感染者数が最も多い地域です。キガリから南へ 60 キロ余り離れたリリマでは、受益者が病気や事故などによって不都合が生じた場合、キガリの病院を受診するか否か悩むところです。ルワンダの医療事情については、別の機会に触れようと思いますが、今回はコロナ禍の最中、行動制限や厳しい規制の中で起きた事件についてお知らせ致します。

事件を起こしたのは、13 歳のジェニンです。彼女は、2017 年よりイタベホが支援を行っている孤児の姉妹のひとりです。2019 年、ジェニンと妹のディビンはイタベホのスタッフであるデボタご夫妻の元へ、養女として引き取られてゆきました。養父母と義弟 2 人と暮らしていましたが、2020 年 4 月、突然ジェニンが家出をしたのです。ルワンダで初回のロックダウンが発令された 1 か月後のことでした。失踪後、関係者と多数の村人の協力を得て、翌日無事彼女を発見し連れ帰りました。

その 2 週間後、ロックダウンが部分的に緩和された為、私はリリマまでタクシーを走らせ、デボタ夫妻と協議し相談しました。ロックダウンが解除された 6

月、ジェニンとデビイン姉妹をキガリの拙宅へ招待し2日間共に過ごしました。その目的は、家出をしたジェニンとゆっくり話すためでした。

同年7月、ジェニンは2度目の家出をしました。初回と同様、翌日には発見し保護しましたが、家出の目的は、2回共にボーイフレンドの元へ行き、一緒に暮らすためでした。保護した際、スタッフのひとりが彼女に言いました、「もう一度家出をしたなら、これ以上あなたを探すことはしない。何故なら、家出はあなたの判断であり、あなたの意志で決めたのだから・・・」と。後日、デボタ夫妻、役所の担当者、地域のリーダー、私たちスタッフなど関係者10人余りが集まって、夕方まで真剣な議論が交わされました。

ジェニンは初回の家出よりセンターで、妹のディビンは養家であるデボタ宅で生活しています。2021年4月、ジェニンは3度目の家出をしました。幸い数時間後には発見しセンターへ戻りましたが、家出の理由は前回と同様、ボーイフレンドに会うためでした。

ジェニンの生い立ちを知っている人たちの中には、彼女に対し、「あなたは、母と同じ道を歩むだろう・・・」と揶揄する人がいます。つまり母と同じように売春婦として生きるのだ、というのです。

6月、私はセンターで暮らす受益者のひとり一人と面談し、各自が抱えている問題や課題、将来について議論しました。ジェニンとの対談の一コマです。

竹内：私たち一人ひとは、神によって造られ、この世に生まれてきました。神が「人間を造られたのは、神を賛美し、敬い、仕えるため」（イグナチオ・デ・ロヨラ）であり、全ての人に神さまから託された使命があります。そして人生には、一度決めると変えられないことがあります。例えば、修道者になること、結婚などは、簡単には変更できない。だからよく考えて決断しなければなりません。

ところで私の使命は、あなたたちをお世話すること、そのために独身の道を選びました。ところが神さまは、あなたたちのように可愛い子供たちを与えて下さいました。私は、このように生きてきたことを幸せに思っています。ところで、ジェニン、あなたの人生の目的は何ですか？

ジェニン：・・・?? よく勉強すること、そして大人の言うことをよく聴いて規律正しい生活をする事です。

この対談に同席していたデボタが終了後、ジェニンのために祈り始めると号泣しました。日頃、陽気でジェニンについて自発的に語ることはありませんが、彼女の苦悩が披歴された時であり悲嘆にくれる母の涙でした。

ジェニンの中長期的目標は、人間の尊厳を保持する生き方ができる人になること、又そのように育むことです。物乞いや性的、薬物やアルコールなどに依存しない健全な人生を歩むよう教え、導き、支えることだと考えます。

イタベホの受益者は、知的・精神的に弱さを抱える人たちであり、冒頭の聖書

の言葉のように、彼女たちはさながら柵から出た迷う羊のようです。「迷う羊は、迷惑をかける、心配をかける、羊飼いに迷惑をかける」(森一弘司教) 受益者ひとり一人は、迷惑や心配をかける一匹の迷う羊であり子羊といえるのでしょう。そして、私たちは羊飼いのように、迷った羊を探しに出かけなければなりません。それは、二度三度と言わず何度でも、それが私たちの働きであり、神さまの御旨であろうと思います。

ルワンダは、10月から3か月余り雨季であり、それが近づいたのでしょう。短時間ではありますが、雨の日が多くなりました。日本は、これから秋が深まってゆくのですね。

最後になりましたが、お祈りと尊いご支援に感謝を申し上げます。どうぞ、続けてのご支援をよろしくお願い致します。

在主
2021年9月
キガリにて
竹内 緑

祈りの課題

以下のお祈りをお願い致します。

- 1、 受益者である子供たちが、神を愛し人を愛する人として成長しますように。現在、男児一人が腕を骨折して治療中ですが、子供たちが事件や事故から守られますように。
- 2、 必要な活動費が与えられますように。
- 3、 現在まで、受益者及びスタッフとその家族の誰もがコロナに感染していません。お祈りに感謝いたします。
続けて、お祈りをお願い致します。
- 4、 新型コロナのワクチンが途上国の国々にも行き渡り、世界的流行が収束しますように。
- 5、 私を含むスタッフたちが、この働きにふさわしい者として整えられますように。

ルワンダの新型コロナ対策



小規模の店の前に設置を義務付けられた手洗い用の水
大規模のマーケットや銀行では、手指の消毒用アルコールがあります。



感染予防のため設置された啓蒙用の小さな看板
マスクの着用、手洗いの励行、他者との距離の保持
ワクチン接種等



拙宅より 10 メートル余りの所に在る雑貨店
私は、この店で米、イモ類、果物などを購入しています。



上記の雑貨店の隣の家

道路端の僅かな場所に野菜を栽培しています。手前より、”ドド”と呼ばれてほうれん草に似た野菜、右手にサトウキビ、後方にアボガドの樹があります。ルワンダでは庶民、先進国から見れば貧しい人々がこの地域に生活しています。